

東蝦夷地くまじり嶋騒動

全

リ 5
7711



一 少〜〜お多〜〜 帳夷人々賣買
改百濟事

一 情事不及尸 物お子 喧嘩は争ひ改
帳目のおき事

一 帳夷長人々不及中人只〜帳夷ありた
厚い高〜の改事

一 惣勢々白偏通詞多りた〜帳夷
人々お陰〜の改事

右々條々 執事相中月々 紀〜岩科の
行者之

六月 批改

右〜通お福帳又道中中宿〜
張巻の帳中改ス

一 同廿日海ら通つ〜事 而是回所 何〜
〜海つ〜事 而〜濟〜 帳火の指 至色花布
〜高層中付事

一 同古智志〜たひ〜事 而若回所 志事〜
帳火の指 至色花布 高層中〜高所
帳夷長人々 而指改人 百〜
〜中〜
〜中〜

大凡毎々片断留江也

一同廿七日由之返つて中野若回所ぬいむつぬきま

とまじり中野燗火の指香急花飾く白南も

中野尚不燗夷長人下は指式人百五の中

一同廿八日由る中野若回所志の事一の中

燗火の指香急花飾く白南も中野

一同廿九日にいかつぬく中野若回所ぬいむつぬきま

燗火の指香急花飾く白南も中野

一同燗火の指香急花飾く白南も中野

燗火の指香急花飾く白南も中野

夷長人百人百五の中

一同日志のぬいむつ中野燗火の指香急花飾く

白南も中野

一同日みついで中野若回所ぬいむつぬきま

燗火の指香急花飾く白南も中野

且世所の指香急花飾く白南も中野

七人百五の中

一同六月節日ころかこも中野若回所ぬいむつぬきま

燗火の指香急花飾く白南も中野

長人百人百五の中

居山且又發動坊口ちくくといふ事ある物命は
大通凡水主正經くしもの右帳美人正正正
逢中一書九一通おるあまおるおる
志くあつて中道正正

一 同八口ゆきゆき正正同正帳大の振動
急死振く正正中中

一 同ちのゆき中正正同正正正正正
帳大場の振動急死振く正正中中
一回九志くあつて中中急正正正帳大の振
動急死振く正正中中帳前長人正中

八人正正の帳中激ゆを南所正正通
正正正正正正正正正正正正正正
又正正正正正正正正正正正正正正

一 ちくくといふ事ある帳前長人正正七人く
すり正正正帳前長人と正正正正正正
正正正正

一 是正山正正正帳前長人と正正帳前長人と
正正正正正正正正正正正正正正
正正正正正正正正正正正正正正
正正正正正正正正正正正正正正

正正正正正正正正正正正正正正
帳前長人

シモチ
 イニンカリ
 イコンロシケ
 ヌウチヤンテル
 シトキンラ
 シリコメト
 チヤアマ
 コエフリ
 チヨクヌカ
 トカムイマウ

のつかはぬ長人子

カ子マキ

右の者がたはくちくちるり海濱動起

執意おるの如く人た取申執たる色即

ニ在申

一 南部大畑村に在る諸島を定めてくちるりおる地
 おるの如く此年分同不海ありてくちるり取海
 引船メ移る事地人くちるりありて取海
 此の同列振賣人たし申ありて高き白くちるり
 色と厚くちるりありて 昔酒と申は皆く

一 近年くは是より略々多量の種子に者たすに
 其時より者たす長人毎家毎帳表女房と密書
 致し居り。帳表女房は彼是中より母を理不
 考し打擲中の中在る者より者たすクニテ
 中々帳表女房と同居する引違書
 婦同種に致し幸何とに信交事し居り
 及取中

一 世及詮動の、異個人入交の風流に致し居
 事尋し、中在る者たす一白に居り、風流に取
 居り

右に致し居り及取の趣り

六月十日

- 一 世新の糧米用意は
- 一 同日二日尚下分遣り居り
- 一 同日くは是より中中より同家のついで
 いとま志りむ右に下と増大の糧米急務
 締り、尚中中分遣り、帳表長人、下
 指五人百連の帳中居り
- 一 同廿七日迄、惣務河つ吉、中中分遣り
 尚新長人

たゞ此帳更なる。極方一者あり。も
至る。之。儘。一。履。履。と。曰。く。之。を。是。る。
初。る。初。混。仁。中。及。其。中。

一。之。之。り。也。長。人。サ。キ。子。病。家。之。長。
之。之。之。極。方。一。者。業。ら。酒。と。持。事。
幼。家。之。之。之。中。之。右。之。業。ら。酒。之。中。
サ。キ。子。之。吾。之。之。使。之。者。中。之。之。之。之。
酒。之。之。之。之。酒。之。之。中。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
キ。リ。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。

之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。

一。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。

女子、客交、との数ある、
御意、此後、右、取、
一世、後、後、人、と、今、
取り、

右、通、再、
一、後、
女子、
あり、
尊、

別、
又、
右、
わ、

一、
代、
場、
子、
此、
文、

物々五斗方延命之志厚く毎抱も致し
此身尚存の應受ダニ子ツラを振るる事抄由
此由

一 長人九斗中延命之志厚く毎抱も致し
此身尚存の應受ダニ子ツラを振るる事抄由
けし長人の内之三千のつかぬ長人(四ノ千
クサホロヤ湯用にもおまゆとのともおまゆを
るまゆのまゆ即ち中延命之志厚く毎抱も致し
中延命之志厚く毎抱も致しおまゆのおまゆの
古ゆのまゆ中延命之志厚く毎抱も致し

一 ぬきし流臺之志厚く毎抱も致し
人た百連(まゆ)の志厚く毎抱も致し
くたしゆ(志)中合のつゆ子(志)長人(シ)コング
アイスニサフロコハカアイヌハシタアイヌ(下)志
人(余)と七月二日(出)私(中)付由
一 尚新(志)長人(大)勢(志)由
一 同新(志)長人(志)由(志)のつかぬ(志)
吹風(志)と(志)私(志)の(志)由
一 七月二日(志)志(志)追(志)出(志)私(志)の(志)つかぬ(志)
は(志)私(志)の(志)つかぬ(志)志(志)長(志)人(志)イ(志)コト(志)上(志)同(志)人(志)

ニシコマツケ同人より母ヲツケニ南越大畑村結也
吉原同船之旨も事由は途申しる所の
かゆ子に同及致し余の友人志并長人
と申す候也

一月八日迄に回勢進みのりかゆ子旨

一月九日つけし書長人母ヲツケに通詞たす切
中書も先此の進みたる所長人た書
以外も事由も中書も事由も私
と故地へ玉綴長人た書に及ゆる所
なす候中書も事由も通詞た中書も事

別た通書也

一月九日南越大畑村結也吉原并くあたる所強勁
と極子あたる所右志志に一月十日に役人たす候と
事由は書し色に申す

一月十日イコト上母ヲツケニ出松

一月十日也吉原同船とお尋し候此の強お尋し候
吉原同船の旨も事由は途申しる所の
かゆ子に同及致し余の友人志并長人
と申す候也

一月十日に南越大畑村結也吉原并くあたる所強勁

一 船夷人より別ら長付胡を風雨の時節を
考はるゆゑの成る者候と云ふ意り也
とのハ 郵

一 毒薬の治業常く用之この故也事

月日

隊頭

也 傍

一 同十に日 假字の事也 越 是の事也
一 同十の事 相行の極なる通

是迄 諸事 候と云ふ事也 此の事也
市中 流目付 候事 候事 陳申 陳申
是の事也 候事 候事

一 同十の事 候事 候事 候事
長人 候事 候事 候事
船夷 候事 候事 候事
長人 候事 候事 候事
大武 候事 候事 候事
印 候事 候事 候事

一 候事 候事 候事 候事 候事

多し志やも地口極高夢の境を去死人の世に
移るゝとのありけしめし海へまゝに離れ去心
そらに存れし中地を而に月也長人サキキ子病
氣に長生を願ふ酒と夢を水あふしけし
去人海へちりて去死人の世に中よりあ
まの尚極下子病を脱れしを別有海と文
吾らも春のわが世に去死人の世に是の世に
ほらちりて去死人の世に長人サキキ子病を
候ふ果中より去死人の世に初日長人マキキ子病
候ふと極下子病を脱れしを果中より去死人の世に

と極下子病を脱れしを果中より去死人の世に
迎ふと極下子病を脱れしを果中より去死人の世に
何と多し中より去死人の世に候ふと極下子病を
と口に因計極下子病を脱れしを果中より去死人の世に
飲交は居る一神と年と去死人の世に極下子病を
あはれらるゝ密交し候ふと極下子病を脱れしを果中より去死人の世に
ふはれらるゝ密交し候ふと極下子病を脱れしを果中より去死人の世に
アイヌマメキリ 初らして大勢 徒書と結ひ
隆勢記の事 古事 之世に去死人の世に極下子病を
しとお知りて何れも 去死人の世に極下子病を

善く私書の中へ事取一面に存し候 謹記
御座り申上候 以言ひ事取の故に私書
召入

一 善く改動する酒と長人サレキ子此甚く酒と
吾れは書出中凡そ之に事取の故にサレキ
右此等の改動は御座り候サレキ子病
死に候事サレキ子病死に候事サレキ子
御座り候事サレキ子病死に候事サレキ子
吾れは書出中凡そ之に事取の故にサレキ
右此等の改動は御座り候サレキ子病
死に候事サレキ子病死に候事サレキ子

江の浦へ取り戻す

一 此度改動の中へ是れ人々へ入交は候事
此等此等の改動は御座り候先年此等の
事取人々へ是れの中へ此度改動
御座り候事サレキ子病死に候事サレキ子
右此等の改動は御座り候サレキ子病
死に候事サレキ子病死に候事サレキ子

前書へ通しキ人初長人此中遠く候事
此等此等の改動は御座り候先年此等の
事取人々へ是れの中へ此度改動
御座り候事サレキ子病死に候事サレキ子
右此等の改動は御座り候サレキ子病
死に候事サレキ子病死に候事サレキ子

ノ子ハウトカニ
イカシアイヌ
ト
リスカル
シウマウカサン
ノイ、フンケ
セタエチセフ
サケチレ
カニフシハ
ユタニヒシケ

セツハヤフ
チカフキウ
シヨシヤタル
シヤモラツカイ
チウレツ
イヌクマ
トント
マウカト
アイキンケ
イルキ

イカルサンケ
ハシタウケ
シタ子
ナイフタアシ
ニノタトリ
シトノヘ
シヨクユク
レアタエ
モノシ
サケヌカル

子ヤンタ
子ヒラシヤ
クニトハ
ニタエ
クシタケ
イルマセ
シヤンカク
トシヤクイ
子ヤンユト
ウ、フリトヘニ
イヌトシヤラ

ヲカトシ
ヤヘコカル
ヒシケシ
ヘケシヤウ
モシニシ
トエラアイト
ケウトモニシケ
セン
シ
シケシトラ

千
ア
トケ
ニコ
子
子
子ヤ
ニ
ア
セ
シ

トシヤモンボ
イノツケル
エモレエ
テシコツ
ニヒリ
コイセイヌ
子ヒニ
アヘヌニツ子
子ヤハ
シヤンラリ

ホキヌカル
カタニ
ヒセリコ
ボロエノキ
トハヘツ
シセツ
カムイナシカウ
トルウシ
アニノ
ヲレハク

ウエ モイケ
クト子
イハレ
アヘトカリ
シキレラ
アサマクン子
イカセフシユ
イテカニ
セウリ
千ニシユク

トンヒ
セウルヲクル
ハツフ
ヒシヨイナヤ
ホロフシヤンケ
ムンクルカ
クハシユイ
子モロアン
カシシヤツテク
ナンタラタ

カシチヤク
ワツカトルウシ
クウトエ
シンスクニ
トアアケ
シエムイクエ
シヤンヒル
ヲタヲケレ
シヤツカム
アエヒカレ

コエチヤハ
シヤシ
トノトキ

部合百之指人

一 同十八日朝之志り長人ツキノイ河の志り長人
イコトエのつづし長人シヨシコを即長人たふ所
海部中行ゆ部たし通

部中中之記書案と志百之指人おふゆゆもたし
口改れし志毎極方と志と及部害ゆもや白部
改れゆも中ゆゆと志ゆゆと志ゆゆと志ゆゆと

之のりてきりりるるお穿れ又より能く趣き
 及隆高の中在り始末もおれを神に早き
 と此方と無想の体は一服の性もあらず
 神もなきはあらずともあらずともあらずとも
 其の性もあらずともあらずともあらずとも
 此方とおれを神に早き
 右長人たは中道中今期は作れは忘れられ
 存ありあはれなきはあらずともあらずとも
 中よりしつて色慾の業はあはれなきはあらずとも
 中よりしつて色慾の業はあはれなきはあらずとも

第九の通の元

徳業の元と名義八人

マメキリ	ホニシアイヌ	イヌツマ	サケナシ
ノ子ツナカシ	ホロエメキ	シトヌイ	ケウトモヒシゲ
徳方共及教書の老名義部十九人			
シラリシヤマヌ	モシリイハケ	モウシタル	マウカト
カシノシハ	コタシロシケ	イカシアイヌ	トシト
セツハヤヌ	ヒシヨイナヤ	イルサセ	セウリ
カシキヤリ	シヤタエ	シヨクユク	モフシ
シヤシカリ	センヌ	シルリ	シセク

イカセソシユ イテカニ トシヒ セウルラクル ハクフ
 子モロシ カシヤツタ ヲシタラク リツトエ シンヌル
 トアフケ シムイタエ シヤンヒル ヲタラケ シヤツカム
 アエヒカニ コヘチャハ トノトキ

一 同日以後極方者及被害少強念委細お尋
 少し統黨既九方引續くもの三指七人中之少強
 長人た中も是中係く委細く始末書らるる
 一 同日夜極方者との及被害少 概夫も三指七人
 少しお尋少し長人た中も是中通お尋らるる
 入室中係中と既九人中別後者を引續く

一 ツキノイ イコトエ シヨゴ 袖長人た 呼出中
 酒の類た通

入室中係の 統黨既九方引續く者之指
 七人た五指之人とのた 持系く武指の
 とくありる事也 既九方引續く中係の
 一 右長人た十指と統士固付 是様通 通た
 是様通た
 一 取手山武指た通

弓 百二張 矢筒 七十八

但加之包多尤毒者救之者九百余

二千七箱

柳夷力

六指八橋

德 法

武 提

同十九日 陸軍部 加しりる九指三人 呼ぶ
色中乳の毒 呼ぶ長人 中中より通し 呼ぶ
しりる急度 呼ぶ 越中 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
軍令 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
色中乳 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ

同日 軍令 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
越中 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ

顔に 通し 呼ぶ

く分志り 柳夷力
先ふり 十一日

く分志り 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
中の中 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
人々 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
山 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ
呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ 呼ぶ

たき毒^ホ夜中居り死に交南交日月中惣長人
サシキ子病氣^ホふくむ長女^ホ一^ホ候^ホ内^ホく忍^ホん^ホる^ホ
ら^ホふ^ホく^ホち^ホ死^ホ人^ホ幼^ホき^ホ病^ホと^ホ一^ホの^ホ早^ホき^ホ病^ホ尚^ホ中^ホに^ホ死^ホせ^ホ
ゆ^ホ支^ホ死^ホ人^ホ後^ホ居^ホ別^ホ国^ホ人^ホな^ホた^ホ長^ホ人^ホサ^ホシ^ホキ^ホ子^ホあ^ホら^ホ
文^ホ者^ホら^ホ中^ホの^ホ使^ホら^ホ見^ホせ^ホし^ホ候^ホ乞^ホは^ホ中^ホに^ホ居^ホる^ホは^ホ
海^ホと^ホサ^ホシ^ホキ^ホ子^ホ吾^ホら^ホと^ホある^ホお^ホも^ホり^ホた^ホま^ホ怪^ホ奇^ホ
存^ホ長^ホ子^ホを^ホ却^ホ回^ホし^ホて^ホノ^ホキ^ホり^ホら^ホ中^ホに^ホ居^ホる^ホ女^ホ房^ホ運^ホ
脚^ホの^ホ使^ホと^ホ喰^ホせ^ホぬ^ホ方^ホと^ホあ^ホく^ホお^ホも^ホり^ホら^ホを^ホ後^ホ運^ホせ^ホ居^ホて^ホ
何^ホの^ホ程^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホと^ホ指^ホし^ホぬ^ホ怪^ホ奇^ホと^ホい^ホふ^ホに^ホ入^ホを^ホ迎^ホへ^ホ候^ホ長^ホ
女^ホ振^ホ上^ホり^ホ中^ホに^ホ居^ホる^ホは^ホ怪^ホ奇^ホと^ホい^ホふ^ホに^ホ入^ホを^ホ迎^ホへ^ホ候^ホ長^ホ
女^ホ

一
何れの中合系事^ホの^ホ長^ホ人^ホマ^ホキ^ホリ^ホ中^ホに^ホサ^ホシ^ホキ^ホ子^ホ
長^ホ人^ホ初^ホ級^ホの^ホ女^ホ房^ホに^ホ毒^ホ殺^ホいた^ホし^ホて^ホは^ホり^ホま^ホて^ホも^ホ
毒^ホ害^ホの^ホ致^ホす^ホら^ホる^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
何れ物^ホの^ホ備^ホの^ホ廢^ホす^ホ候^ホ長^ホ人^ホと^ホい^ホふ^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
後^ホの^ホ事^ホハ^ホ一^ホ把^ホの^ホ女^ホ房^ホに^ホ毒^ホ殺^ホいた^ホし^ホて^ホは^ホり^ホま^ホて^ホも^ホ
或^ホは^ホ一^ホ把^ホの^ホ女^ホ房^ホに^ホ毒^ホ殺^ホいた^ホし^ホて^ホは^ホり^ホま^ホて^ホも^ホ
何れ物^ホの^ホ備^ホの^ホ廢^ホす^ホ候^ホ長^ホ人^ホと^ホい^ホふ^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
一^ホの^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
何れ物^ホの^ホ備^ホの^ホ廢^ホす^ホ候^ホ長^ホ人^ホと^ホい^ホふ^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
一^ホの^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
何れ物^ホの^ホ備^ホの^ホ廢^ホす^ホ候^ホ長^ホ人^ホと^ホい^ホふ^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ
一^ホの^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホと^ホい^ホふ^ホ候^ホに^ホ存^ホす^ホ事^ホ

政神の家水産

一 回不也... 支配人... 女帳表... 辰子... 志アバ...

所記
ヲムシヤトアハ
至クヨ

一 若也政... 辰子... 志アバ... 辰子... 辰子... 辰子...

夫一象受てりて其の三度いづかんに此無正執る切之切
人といふ一由事有る事念を修致す能事也

一
曰西下中むいふ如くとしヨイヤヤ中一帳表く女房、
梅子よの蜜更く成と之を食ひて知事致し得る也
老又中下長くたはたは新いたし一子席し
そえよ小神と名も女房の所致し一筆採りし由
と心ふはれぬ 理ありて 蜜更は此所古女帳表の所
中ゆふつくあし一法中をぬ却る能くしとて法也
此得て中とありて其の由事しとて一子と梅子
梅と神高貴也此其の由事しとて一子と梅子

よの海養を能くし一象也其の言はぬ 読書は打殺
梅子志はく女志の如くはまらむい一室と居らみ人
のその三人由ありて志の或人ち取あらし一八人
ゆりぬぬはに人あり一の白志魚つとみ人ち一と
運と居る指はく神志を居大運地を指し人ありぬ
りらみ人らん梅子志み人ふけむいらみ人く名ん居ら
ら八人打殺す也 古遠 此由事也

右中と通する止るる事ありあらし一室中 帳表は打殺
中念志也人と討殺す也 梅子志古遠 此由事也
此由事と取けともる事と梅子志一子と梅子志

支那の文化は極くその北に在る本國の文化に比し
その文化一帯に在りては

皆その文化の別と實文年中の年々より作ら
れざるは流業の如く其の如く其の如く其の如く
情の如く流業の如く其の如く其の如く其の如く
り作らるる極く其の如く其の如く其の如く其の如く
指し示す所は極く其の如く其の如く其の如く其の如く

右は作らるる一統の如く其の如く其の如く其の如く

寛文元巳五年七月廿日

イナヲラン	リケン	ヌケラシ	ヲホカエ	カモイホクシ
イムシウタシ	アトエ	エウナヤチ	ヲムシウカ	ヲムルケ
イツフイ	トリ	イヌカハ	シウマウカサ	ノイラシケ
セタ丑チヤセラ	チカフキヲ	シヨシマクル	シヤモヲツカイ	チウシウ
アイキラシケ	イルキ	イカルサシケ	ヘシタウケ	シタ子
子イウタアシ	テタトリ	サケヌカル	チヤンタ	子ヒラシヤ
クニトハ	ニタ丑	クルタケ	トシヤクイ	シヤレト
ウラリトヘニ	イヌキシヤチ	ヤヘコカル	ヒシケシ	ヘケシマウ
モシシニシ	トエラアイヌ	シケシトラ	子エカシカル	アシ子カシ
トケヲラシ	ニコシ子	子ナシコシ	子ヤ丑ユシカ	エタンハカ

一	タシ子ツフ	一振	シモテ
一	ワ	一振	イニシカリ
一	カニウ子エモシホウタヲハケ	一振	スウチヤシヲク
一	タシ子ツフ	一振	ニシコマワケ
一	エモシホ	一振	エラトルカ
一	タシ子エモシホ	一振	のつゝ海ぬき人
一	タシ子ツフ	一振	シヨシコアイヌ
一	エモシホ	一振	ノチクサ
一	シヤヒシエモシホ	一振	ホロヤ
			コヘカパイヌ

一	カテカ子エモシホ	一振	ハシタアイヌ
一	タシ子エモシホ	一振	くるより長人
一	エモシ	一振	ワキノイ
一	ワ	一振	カンヌク
一	ワ	一振	ウテクニテ
一	ワ	一振	イコクカヤニ
一	ワ	一振	シコシヤンケ
一	ワ	一振	トヘウシ

此と指九取
 右の之は越前守の言ハカ他朝の事也と云云
 此は越前守の言ハカ他朝の事也と云云

惣長人本中酒の級たる也

古来今来の如く 作事所別様あり 級より及中
三層業あり 由精致し 定通年々 如前表たる
目久人の石堂の如く 世に渡り 惟夷たる
所々々々 支那の極あり 志を子心 五斗あり
事起り 如根も ありの け末 交易 今絶 八句 編り
外 概り 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表
石堂 訓の 如く 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表

一 再進如前表 目久人の石堂 改め 考へ けり 五斗 如前 表
五斗 如前 表 目久人の石堂 改め 考へ けり 五斗 如前 表

いふ所は 如く 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表
世に 渡り 如く 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表
したる 如く 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表
いふ所は 如く 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表
この中 あり

一 為目見 五斗 改め 考へ けり 五斗 如前 表

- エモナ イニニカリ イニニカリ イニニカリ
- 子ナカ子 シカウケシ ヨツケニ ノニ子イ
- カシコトロイタキリン ヲタユシ センカラシ子

一 同五、惣勢進、山田河、秋、冬、時、次、々、々、
 中、所、分、志、世、所、分、陸、通、り、約、一、日、
 動、指、火、お、古、改、村、之、業、業、之、所、以、五、端、精、
 十、頃、
 一 同、古、方、の、物、々、々、惣、勢、進、々、々、
 志、や、ま、ん、屋、々、々、正、道、海、孤、場、々、々、
 海、島、は、
 一 同、古、八、日、評、之、如、進、々、志、や、海、人、
 是、り、陸、通、は、
 九、月、中、惣、勢、松、前、表、々、々、
 志、は、

一 流、業、深、水、人、引、續、々、
 地、を、り、役、人、を、古、改、
 一 此、及、の、目、見、之、如、
 古、改、
 右、前、書、之、趣、志、強、横、々、
 斗、不、以、而、後、々、
 牙、を、中、々、
 松、前、志、歷、々、
 新、井、田、綿、之、節、
 横、井、家、々、

寛政二庚戌年
 四月五日

松前志歷
 新井田綿之節
 横井家

惣人叔武等一足

先自一人叔取通以

番頭

新井田孫三郎

物頭

松井茂兵衛

軍中目付

松原玉角

弓之間詰

中野久吾

大出院番

秋山角九階門

小出院番

高橋喜兵衛

大度百番

松江源七

右口門

鈴木文治

殿所

村岡雄哉

俵目付

平沼清六

右口門

木下彌治右階門

足怪細所

石黒文藏

口門

八亦藤吉

口門

藤田亀藏

口門

櫻井圓右衛門

口門

金子平兵衛

和田源兵衛

一組足輕貳拾口人

一宰從足輕拾貳人

一通判貳人

一下通判拾六人

一武笠糧米積取大小七艘

右人數貳百拾人余

例設 青山榮司

中七院若

新井田文左史

右數人志軍中為名錄 新井田

目録後

新谷六九郎

中七院若

古原 兵太

右數人志軍中為名錄 古原 兵太

中七院若 新谷六九郎

右數人志軍中為名錄 古原 兵太

一 漢炮

持系武急覺
四指五挺

即

二十
二十
十五
十五
十
十
四

二
五
五
五
十
十
十七

一 大漢炮 三挺

從火礮 急色 持系結

一 漢炮 五圓形

一 燄硝 五合系

三十六費八百圓
六百斤余

一 弓

指八張

一 矢

千六百中

一 長柄

六十箭

一 鐵鎗

計流

一 鐵鎗

計指中

一 大吹流

計中

一 軍鐘

計

一 鉦

計

一 太鼓

計

一 軍貝

計

一 幕

三十五張

右外 陸奥色々持系仕

松前志摩吉家来

新井田孫三郎

寛政二庚戌年四月

王原

横井園丸

別紙半切 五ノ字

受

ツキノイ	イユトイ	シヨニコ	ヲツケニ	ホロヤ
ニガムロフ	ノ子クサ	コヘカアイヌ	ハシタアイヌ	シモ子
イ子ロウ	エウトルカ	リミセアイヌ	ヌウナヤシテル	シトキンフ
子ヨクヌカ	イコシセシケ	リキ子ヤシテ	ニツ子ウル	シリコヤ
トキシヤラ	イニシカリ	ニエフリ	ニシコマツケ	トカムイマウ
カ子マキ	イコトカニ	シトリキン	シケシ	サケンアイヌ
子子カ子	シトウケン	ユウトロカ	ホロヤリ	シケセ
ノシノイ	カシユトロ	イタキリン	ヨメシユシ	イメシユユ
セニカンシケ	モシラシテ	コタシシヤム	キモニシキ	セルマシ

聖清用外之海身海切と云く志摩守亦其
中傳始末不居其遠清中一付也

松前志摩守亦其

泉老松前左船

用人寺社覆幕下至舍人

寺社覆幕下至舍人

其寺社覆幕地強動有之其忍入之御儀物所用
松前之海身海切清俊彦之先人蝦夷地交易紀と

一々其或彼地之種子海身海切と云く幸其地以東
九編市俊彦任心附之其政事等之儀也其地中
傳也其書之案之乃見即云と又之九編市之海身海切
地傳員凡扱之評儀之也之其地中傳書本と云く其地
始末不末之二人其押込中付也

奥列野邊地村

徳月

其方傳之不傳之節も其之其方之據

右飲之世丹後守宅中傳也

徳内、俊茲召仕、成う蝦夷地、所我者也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

v26678

